

【茨城国体なぎなた競技 ボランティア】

9月29から10月1日まで、常陸大宮市西部総合公園体育館で開かれた国民体育大会なぎなた競技会の競技補助員ボランティアとして、大金千紗さん(3-1)、小室柚奈さん(3-1)、荒井真愛さん(3-2)、梶山璃奈さん(3-2)、桑名萌さん(3-2)、助川仁美さん(3-2)、古室彩那さん(2-1)、橋本姫架さん(2-1)、檜山菜緒さん(2-1)が参加しました。補助役員の生徒たちは昨年のプレ国体の時から補助員として携わってきました。国体本番でも滞りなくスムーズに運営を進め、全日本なぎなた連盟の会長や選手団から労いの言葉をもらいました。

また、おもてなしの一環として、大和楓果さん(3-2)、小野瀬陽香さん(2-2)、片岡優月さん(1-1)、関ひかりさん(1-1)が70個以上の生け花を都道府県選手団の控所や来賓控所に設置しました。来賓、監督や選手、多くの人たちの目を楽しませました。



競技補助員ボランティアの生徒たち



閉会式の後、監督・選手たちと



おもてなしの一環として生け花作成



都道府県選手団の控所

～助川仁美さん(3-2)より～

補助員として私は国体に参加しました。数多くの研修を踏まえて本番を迎えることができました。大会終了後に監督の涙を見て、私たち補助員も力になれたことを感じ、貴重な経験になりました。

【枝物収穫体験】

10月10日(木)、小瀬高校1年生が常陸大宮市のJA常陸大宮地区枝物部会の協力を得て、枝物収穫体験を行いました。生徒たちは、協力いただいた9軒の農家にグループごとに分かれ、収穫する枝物の名前や収穫すべき大きさ、切り方などの説明を受けてから収穫にあたりました。真剣な態度で説明を聞いている生徒の表情、収穫して充実している生徒たちの表情はとても印象的でした。

生徒たちが収穫した枝物は、120周年記念式典が開かれる緒川総合センターホールに、生徒一人一人が飾る生け花の花材として使用されました。

自分たちの作った花器に、生徒それぞれが花材に思いを寄せながら、個性的で素晴らしい作品を作りました。



枝物収穫体験から



自分たちの作った花器に花材を生ける生徒たち

～高澤亮汰さん(1-1)より～

同じ名前の花でも、いろいろな色や形があり、収穫するときにどれを収穫すればよいか何度も迷うことがありました。また、花材をよりきれいに見せる組合せを教えてもらうことができ、貴重な体験になりました。